



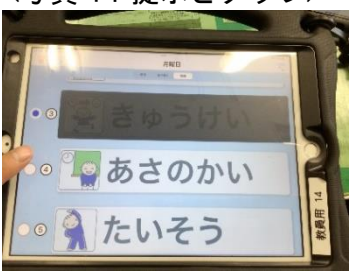


1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山県立東備支援学校	指導者名	長谷川 賢治
実践場面 (教科名)	自立活動	単元・題材名	スケジュールの理解と 行動の切替
学習目標・ ねらい	・スケジュールを確認して、見通しをもって学校生活をする事ができる。		
対象児童生徒の 実態	知的障害部門 高等部 3年		
	<ul style="list-style-type: none"> ・発語がほとんどない。 ・声掛けで次の活動にすぐに行動できないことがある。 ・トイレにこもり、出てこないことがある。 ・教師に告げずに他の場所に行くことがある。 ・自分の思いと違った時には、すべきことに取り組むまでに時間がかかることがある。 ・ひらがなが分かる。 		
活用の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・アプリ「DropTap」を活用して、タブレットで生徒の実態に合った一日のスケジュールをひらがなで作成する。中サイズで作成することで、一度に見えるスケジュールの数を限定して、混乱しないようにする。〈写真1・2：スケジュール作成時〉  ・一日のスケジュールを強調して、視覚的に見やすくし、教師が終了のタイミングで、タブレットを生徒の前に提示する。〈写真3：強調〉 ・スケジュールの左端をタップして次の行動を示すようにする。〈写真4：提示とタップ〉 ・スケジュールが違うときには、臨機応変に即座に作成し、スケジュールに組み込む。 			
〈写真1・2：スケジュール作成時〉			
			
〈写真3：強調〉		〈写真4：提示とタップ〉	
			
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善 点等	<ul style="list-style-type: none"> ・「DropTap」を使うことで、声掛けですぐに行動できない、トイレにこもるといった状況がなくなり、スケジュールを見て次の活動を理解し、自分からすぐに行動に移すことができるようになった。 ・様々な場所で即座にスケジュールを作成できる。 ・活用する生徒の反応から、一覧で表示するよりも直前・直後の活動のみを示す方が見通しをもちやすいという実態が分かった。 ・課題は、どこまでの活用を目指すのかを事前に計画して活用した方が良いこと。（タブレット端末は高価であったり、DropTap活用の仕方を覚えたりする必要があるため） 		